

# 北海道教区報

第544号

発行所

天理教北海道教務支庁  
札幌市中央区南8条西11丁目  
電話011(561)-1148  
FAX011(561)-1190  
E-mail:kyouku-h@vega.ocn.ne.jp

印刷

三浦印刷株式会社

本年もよろしくお願ひ申し上げます

立教百八十一年 元旦

天理教北海道教区

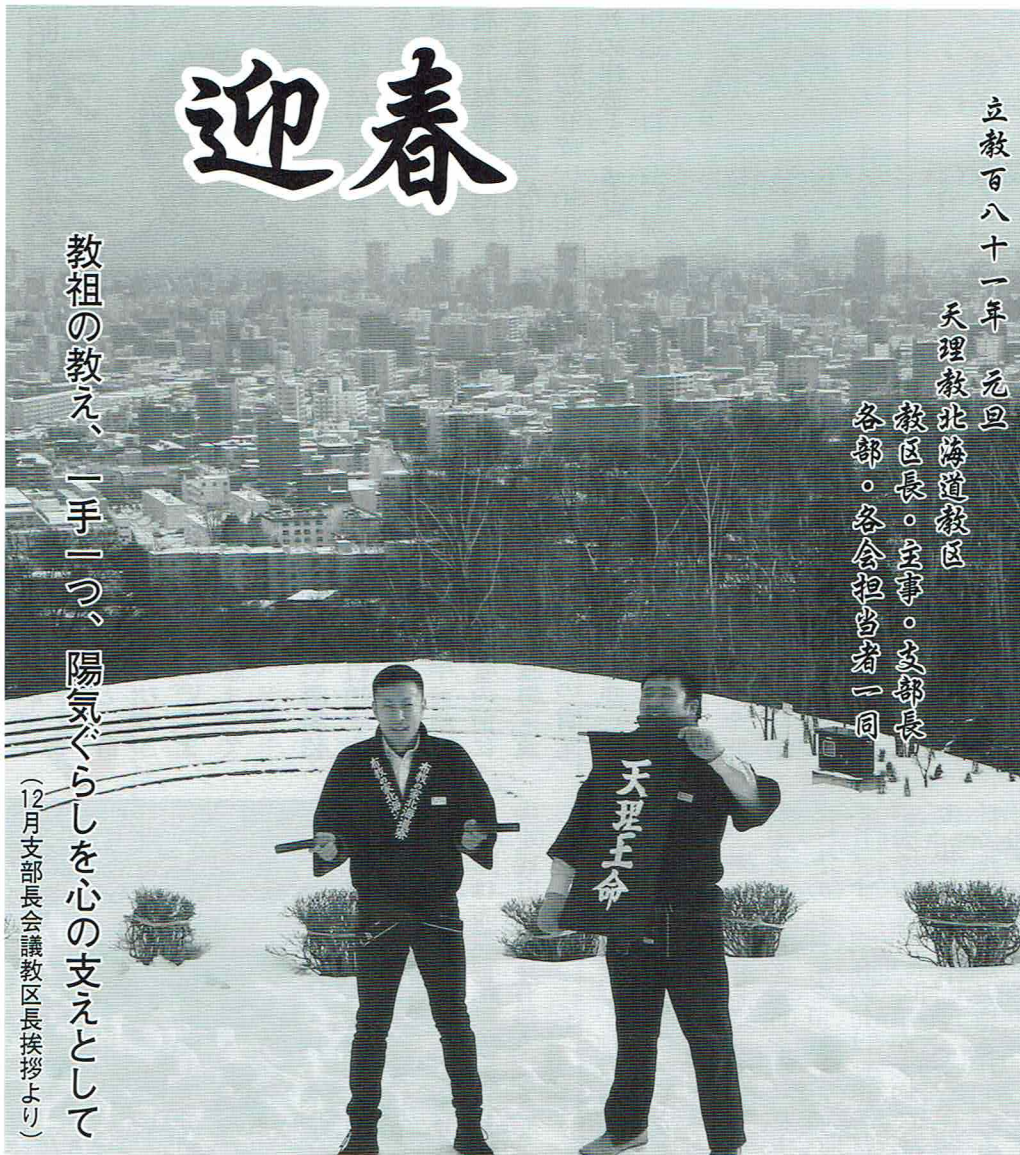
教区長・主事・支部長

各部・各会担当者一同

# 迎春

教祖の教え、一手一つ、陽気ぐらしを心の支えとして

(12月支部長会議教区長挨拶より)



地域社会で無くてはならない教会に



教区長 西垣 定洋

立教181年の新春を寿ぎ、心よりお慶び申し上げます。

皆様には昨年は、教区活動の上にご尽力いただきました。誠に有難うございました。本年も変わらずお力添え頂きますよう、御願ひ申し上げます。

昨年の秋季大祭で、真柱様は、「世界中の人間が、兄弟として、互いに仲良くたすけ合って暮らす世の姿を、何よりもお望みであります。

人は誰しも陽気であることを願うものですが、その為には、自分のためだけを考えるのではなく、人を陽気にする、勇ませること、更には人をたすける心と行いが大切であります」と、お言葉を下さいました。

私達が日々に陽気な心で、自分の器が大きくなるよう努力し、地域社会でなくてはならない教会となるよう、教区・支部活動を通して、一手一つとなって勤めさせて頂き、更に、おちばへの想いを強めて歩んで頂きたいと思えます。

本年も何卒、よろしくお願ひ申し上げます。

教区長

## 春の学生おぢばがえり

立教181年 3月28日10時～ 本部中庭

前夜祭 27日本部夕づとめ終了後から21時頃

場所：東西泉水プール前

北海道教区学生会 別席団参募集中詳しくは教区学担まで

天理教基礎講座  
北海道会場

3月3日教務支庁会場から始まります。本年も多数のご受講をお待ちしています。今後の会場は次号を以ってお知らせ致します。

北海道教区のホームページ <<http://tenrikyohk.wixsite.com/tenrikyo-hk>> 教区報がご覧頂けます。

昭和42年に想う



総務部長 高橋 政嗣

年会より「ひのきしん隊」のお誘いを受けた。母に相談すると、「行って来なさい」と、許しを頂いた。初めての「ひのきしん隊」。訳が分からないままに、毎日ひのきしんに励ませて頂いた。

昨年、二代真柱様の五十年祭が、執り行われた。私も八月末、父である四代会長の五十年祭を、兄弟姉妹だけでささやかではあるが、勤めさせて頂いた。

思い返せば、50年前、父の突然の出直しにより、私は大学を中退し、自教会に帰った。この先どうなっていくのか分からない、不安な気持ちの中、母が五代会長を受けてくれ、役員、部内会長の尽力で、お運びをさせて頂いた。そんな時、蒲生の青

大和 わがふるさとの・・・

回想と素描のなかに自ずと披瀝する信仰へのあくなき情熱 中山正善 二代真柱様が 思慕を込めて語る大和の人・もの・風物… 昭和35年刊行の随筆集を復刊!

【二代真柱五十年祭記念出版】

A 5 判並製 / 152ページ ¥1,512(税込)



布教部長 美田 伸一

たすけ一条の地域活動の推進役に

昭和42年は私の人生を決定づけた年である。

その中、忘れもしない昭和42年11月14日、朝づとめの拍子木は、いつもの通り、二代真柱様が打たれた。そして、午前中の作業が終わり、第二食堂の前に集合した時、当番班長より、「真柱様が出直された」との言葉に、衝撃を受けたことを思い出す。その夜、お宅へお別れに伺わせて頂いた。二代真柱様の御遺体の向こうに、床の間を背に、三代真柱様を始め、ご兄弟姉妹が、悲痛な面持ちでお座りになっていたのが、今も目に浮かぶ。



支部布教部長研修会

昨年、真柱様が神殿講話で「ようばくを育て、増やす」との大切さを強調なされた。そこで「道の将来を担う人材を育成する必要性を強く感じる」とのお言葉を頂戴したのであります。現在の旬は、道の後継者を育てていく事が大切であり、現にその取り組みである「後継者講習会」が実施されている最中ではありますが、まずは、道の先達者達が、その意識に立たなければなりません。この事は教区・支部活動の中からも推進姿勢が必要となってくると思われます。縦と横との谷間で、見落とされがちな人々への心配り、丹精が必要であり、同じ地域にて教友が相携えて、その思

い、目的に向かって励まし合い、助け合う喜びが大切だと感じます。その上から、布教部自体の動きは当然ですが各部・各会活動の隙間を埋めていく事も、布教部の動きと捉えて、全ての活動の旗振り役であるという自負の下、一層力を入れて努めさせて頂きたいと思わせて頂きます。本年も従来からの活動は元より、さらに充実した部活動を推進し、たすけ一条の地域活動の充実をみせて頂きますよう努めてまいりますので、より一層のお力添えを賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

先人の心を受け継ぐ「おぢばがえり」とは



輸送部長 笹田 道継

謹んで立教181年の新春をお喜び申し上げます。本年は教祖130年祭を終えて次の塚へと向かう一歩一歩の歩みが間違っていないかを確かめる年でもありません。今の旬の活動は親神様の思召しを伝えられるようばくに

在おぢばで開催されている「後継者講習会」に若い人達を参加させたいという思いがあれば、どうしても「おぢば」へとお帰り頂かなければなりません。道の黎明期、私達の先人先輩は遠く「おぢば」までの旅費を賄えず、ある教会長などは連絡船に乗るお金がなく何日も連絡船の乗り場に通っていたところ、信者さんがその姿に気づき旅費を御供えしたという不思議な話を聞いたことがあります。その神様にもたれ切る心に神様はお働き下されたと思いますが、果たして今は時代が違うとは言え、先人のこの心を受け継ぎ「おぢば」に帰らせて頂くありがたさを噛みしめているでしょうか。経済的に豊かになり輸送費用も時間もかからなくなった現在、それでは「おぢば」へと帰る人が増えたかと言えはそうとはならず、むしろ減少しているのが現実であります。輸送方法はより利便性と快適性を求めるのは当然のこととして時代は進んでゆくであります。が、「おぢば」の意義を伝える我々の熱意がなければ、どんなに安くて速い輸送が可能になったとしても、それは宝の持ち腐れになってしまいう可能性がります。輸送は補助

# 天理時報はようぼくの機関紙

布教部との共催による『天理時報』手配り10年ひのきしん者感謝の集い」が10月25日、本部東礼拝場にて開催。全国から関係者約5千3百人が集まりました。

そのおり真柱様からお言葉があり、最後に「これからも手配りひのきしんの輪を広げて、お互いの絆を強めるとともに、一人ひとりがそばに心をつない

で、手から手へと、親神様・教祖の親心を運び届けていってくださることを願いたい」と結ばれました。

現在『天理時報』は11万1千部が発行。うち北海道の教会が取り扱っている部数は、約5千部。手配り率は全教で53・32%。北海道教区内は32・8%。(立

教180年11月現在)

手配りの意味合い、有用性、問題点を確認したく、新年度早々、支部の手配りを推進して頂いている先生方にお集まり頂きたく、計画しているところ増部に、またお道の広報活動の上によりしくお願い致します。



文化広報部長  
加地 道喜

## 「教祖の親心」を手から手へ

教育成部では、婦人会、青年会、少年会、学生担当委員会が今年も充実した活動ができるよう各会との連携を取り、たすけあい、工夫や創造をしながら、その活動のあと押しができればと考えております。

毎年、札幌市で開催される「よさこいソーラン祭り」には、ひ

が、15歳以上より受講可能でございます。どうか縦の伝道・横の布教にご活用下さいますようお願い申し上げます。

「基礎講座」でございますが、日程などは教区報や教区のホームページをご参考にして頂ければと思います。



教育成部長  
高橋 太志

## 縦の伝道・横の布教に 一役担う

でありに、おたすけが主だと分かっていながら、どこかで本末を転倒しているところがないかを確認しながら、輸送体制に対するご意見を頂戴し、皆様のご要望に応えられる輸送部を目指してゆきますので、本年もどうぞよろしくお願い致します。

のきしんとして参加しておりますが、会場の清掃やインフォメーションセンターなど運営する大会本部より信頼を頂いております。今年も学生の皆さんと共に多くの教友の方々のご参加をお願い致します。

また、「教区音楽祭」では、合唱団、鼓笛隊、雅楽など管内の音楽の発表の場として、開催しております。是非、今年も多くの団体がご参加を頂き、お聴き下さる多くの教友の皆様のご来場をお待ちしております。



よさこいソーラン祭りひのきしん

## 災救隊活動は布教活動



教区災救隊長  
奥村 尚人

昨年九州北部豪雨災害などの災害が発生し、現地では災救隊をはじめ助け合いの力が全国から注がれました。近年、災害現場には大勢(朝倉市は4万4千人)のボランティアが駆けつ

お願い申し上げます。日程などは教区報や教区のホームページをご参考にして頂ければと思います。

けられ、自治体もその対応に追われます。北海道でも、関係機関がこうした状況に対応すべく、各地区などで連携会議が行われ、災救隊もその会議へ積極的に出席し、活動紹介や情報交換を行っています。それは、大きな布教活動になっていくと、またなっていくと信じているからであります。

「災害が少しでも起こらないように、普段から地域でのひのきしん活動の実践が大切である」と、災救隊では申し合わせています。本年も『ひとことはなしはひのきしん』を柱に、数多く布教活動に取り組みたいと思います。



平時訓練 (教務支庁塀修理)

「にをいがけ」の教えへ」



基礎講座事務局長 藤野 充普

「今年もやりますー基礎講座」そんな意気込みを道内の方々に伝えてできればと思います。昨年は11回(内地方開催7会場)開催することができ、49名の方がご受講下さいまして、延べ8千55名の方にご利用頂きました。

のと痛感致します。恐る恐る天理教の門をくぐって下された方はもちろんの事、本講座を信用してお誘い下された布教師の方々に絶大な信頼をもってご利用頂ける基礎講座を目指し、「ようこそ陽気ぐらしの教えへ」と誘えるものを作り上げて行く所存でございますので、今年も待望して基礎講座をご利用いただければと存じます。本年も宜しくお願い致します。

白木原嘉彦基礎育成課長を迎えて、基礎講座講師係員研修会を開催



基礎講座は教務支庁にて12月2日、3日の合宿による研修会を、白木原嘉彦基礎育成課長を招いて3名の新たな講師候補者を含めた講師15名、係員30名、総勢45名による基礎講座スタッフの集いを行った。開講に当たり西垣教区長より講師、係員に対し労いと講座が行事にならないようにそれぞれの立場で一生懸命につとめてもらいたいと挨拶され、白木原課長からは基礎講座がお道の布教においてどのような目的によって開設され、どのような方のためにあるのか創設の時の思いに立ち返って陽気ぐらしへの糸口、おぢばへの入り口をコンセプトに取り組んでもらいたいとお話のあと、講師、係員とそれぞれに分かれて話し合った。翌3日は朝から講師は会場を使つての模擬講座、係員は会場の設営や接客に対する実習と元日本航空客室乗務員によるマナー講座を行い、好感のもてる接客のポイントを教わつた。午後からは講師内田誠司先生(松風分教会長)による基礎講座が開催され、20名の受講があった。

婦人会  
成人目標  
ひながたをたどり 陽気ぐらしの台となりましょう  
活動方針  
ご恩報じを念じ実のようばくに育つ  
一、 教えを学び身につける  
一、 身近な人を実のようばくに育てる  
一、 百万会員を目指して、にをいがけ・おたすけに励む  
「成人目標・活動方針」を心に  
母性の徳分を活かして



婦人会主任 山本 亨子

新年明けましておめでとうございませう。昨年は婦人会活動の上に御真実を賜り、御協力、御丹精下さいまして、誠に有り難うございました。心より御礼申し上げます。  
本年も昨年同様、右に掲げました「成人目標」と「活動方針」を本会より頂いて居ります。  
北海道に住むお互いが心を合わせ、一手一つに、喜び心を持って、母性の徳分を生かし、おたすけの日々を重ねていきたいと思ひます。そして、今年も、「しらゆき会」「ミスさくら会」「ま



委員長講習会

百周年記念総会

10月28日(日) (例年は27日)

昨年中は教区青年会活動、支部青年会活動にご理解とご協力を頂きまして、誠にありがとうございました。本年も変わらぬお力添えを頂きますようお願い申し上げます。



青年会委員長 北村 貴久



さて、いよいよ青年会創立百周年の年を迎えました。ご存知の通り、本年の青年会創立百周年記念総会は10月28日(日)の開催と発表されております。青年会長様は青年会員の多くが社会で働いている現状を踏まえ、一人でも多くの青年会員に百周年総会に参加してもらいたい!!との思いから、例年の27日から日をずらして日曜日開催を決めら



れています。また、活動を継続的に進めていくことよって、若い世代の繋がりを強めて、支部内の各種行事への積極的な参加を促しています。昨年はY・Yプロジェクトに於いて、会員の奥さんの特技を活かしたフラワーアレンジメント教室、地域のカフェを利用したワークショップ、農業を営む会員の畑を利用した三会合同の農業体験など、各支部の特色を活かした活動が展開され、主催者側、参加者側双方から、勇みの声を頂き、支部活動の中から、お互いが信仰の喜びを感じる場を作り出せたことを実感しました。

また、布教実動においては、布教面の打ち出しである『胸から胸への』をい『がけ』を意識して、勢いにまかせた動きだけではなく、自分の信仰の喜びをしっかりと伝え、おたすけに繋がるようなをい『がけ』が出来るように、教務支庁開催の『布教の家体験』、支部ブロック開催の『布教合宿』を開催しました。本年も右行事を中心に活動を展開していきますので、皆様には身近にいる青年会員にお声掛け頂きますよう重ねてお願い申し上げます。

心の根を太らせる

学生会を



学生担当委員会 委員長 笹田 弘行

新年明けましておめでとうございませう。旧年中は、学生会のために各方面からまた大勢の先生方のお力添えを賜り誠にありがとうございました。今年も将来の有望なよふばくに成人してもらえよう、精一杯務めてまいります。今、お道全体で人材の育成に力をいれて頂いておりますが、特



に学生時代を過ごしている若者は傷つき易く、脆く、また危うい側面も持ち合わせております。今は信仰の上に熱心に動いて、喜び勇んでいるように見えても、一時のもので終わってしまい、信仰を見失ってしまう危険性もはらんでいるのです。真柱様は、「(学生時代を過ごしている) いまの時期にあるからこそ、教えを学び、考える順序を学び、心の治め方を学んで実践を重ねて、親神様の思召に基づく心の根を太らせることに努めてほしい」とおっしゃいました。このお言葉を踏まえて、今年も「春の学生おぢばがえり」「高校生の集い『まなびば』」「大学生の集い『Work & Talk』」を軸に教えを楽しく、解りやすく伝えていけるよう努めてまいります。また、学生にはどんな事に出会ってもへこたれない人間へと、よふばくへと育ってくれることを心から願いつつ、共々に成人していけるよう頑張つてまいります。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

私たち夫婦は、教会の後継者で子供が二人の時に、将来のために教会を離れて苦労させていたきたいと熱望し、会長のお許しを得て同じ札幌の地であるが布教に出させて頂いた。その道中で三人目の子供のお与えも頂き、通う人も出来たが、教会の教職舎建築の節に教会へ帰って専念してもらいたいと云われ帰らせて頂いた。短い体験であったが本当によい勉強をさせて頂き、今も教訓として残っている。

その布教に出る時に、ある知人にどこか安いアパートを探していると話をしていたら、その人が私たちにとっては本当に適當なところを見つけてくださった。当時の私はそういうことに疎いほうであったので大変嬉しく感謝させて頂いた。

私は、自分にとっての一つの新しい門出にお世話になったこの事を忘れることが出来なかった。教会へ帰った後も、この恩に報いるという大げさな事ではなく、私の気持ちの納まりのため、以降毎日ほんの少しの物をお礼の印としてお届けし御礼を申し上げてきた。

相手の方は「たったあれだけの事でこんな事はしないで下さい」と申されていたが、ある年限まで謹んでつとめさせて頂いた。かえって迷惑だったかもしれないが、私個人の人生の一つの節目の事として受けた心

### 教理随想 (二十)

## 元一日の心

木岡 昭

て聞いた言葉であるが、私たちがどんなささいな事、人生の瞬間の出来事であっても、たすけられた恩は忘れないで上手に受ける心が大切だと思う。

人は誰でも必ず親や他人によつて大小の差はあつても助けられた恩をもっている。

人生をたすけられた時の感動、感謝した過去があつたからこそ今日があると受けとめて、のぼせないで、その元の心に戻つて恩に報ずることが大切である。これを元一日の心に戻るといふのである。

神様に生かされている恩、また人の恩を自分がどんな事情になつても大きく受けとめて報ずる心には喜べる心が備わつてくる。ところが人は目先にとらわれて過ぎた恩は忘れる。いや忘れるどころか恩と思わなくなる。形の上でどんなに繁栄してもこの心の道を失えば運命は傾いてくる。傾けば喜べる心が遠のいていく。私たちは常に元一日の心を忘れず感謝と報恩の人生を歩ませて頂きたいものである。

## 新会長さん紹介

(平成29年10月26日お運び)

天塩支部

士別分教会(櫻井)

奉告祭1月14日



岩井喜市郎氏 (65歳)

(平成29年11月26日お運び)

渡島支部

本北分教会(津軽)

奉告祭1月14日



葛西隆行氏 (56歳)

### 1円募金から寄付

福祉厚生部

俱知安町(俱知安支部)の特  
別養護老人ホーム「羊蹄ハイツ」  
に車椅子4台を寄付。支部長が  
目録をお渡ししました。



### 訃報

林 トシ様 11月23日出直 (100歳)

楓分教会前会長夫人 (釧根支部)

・藤浦美萬様 11月18日出直 (102歳)

剣淵分教会前会長 (天塩支部)

### 北海道教務支庁日誌抄

(11月19日、12月19日)

11月23日 青年会支部委員長会議

26日 本部月次祭遠拝式

27日 教区長会議

29日 布教の家寮祭

図書修理会

12月1日 たすけ推進会議

2日 支部長会議

予算会議

基礎講座講師・係員研修会

3日 第193回基礎講座

教務支庁会場

講師 内田誠司先生

受講20名

(累計8千5百15名)

16日 庁舎大掃除

17日 布教の家寮祭

19日 教区報編集会議

### けしごばん

◎毎月26日に本部月次祭遠拝式

を営むことになりました。

MINAMI 参拝トコロ。